「当たり前のことからはじめよう」

＜南風 第6回 6月＞

5 月の朝礼時に JRC（青少年赤十字活動）登録式を行いました。委員会の子どもたちからその活動や歴史についての説明が全校児童にありました。

その活動目的は「青少年赤十字は、児童・生徒が赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、日常生活の中での実践活動を通じて、いのちと健康を大切に、地域社会や世界のために奉仕し、世界の人びととの友好親善の精神を育成することを目的として、さまざまな活動を学校教育の中で展開しています」とのことですが、なかなか子どもたちの頭の中にも、ピンとこないのではないでしょうか。そのため、何か一つ行動を起こすことがスタートになり、小さな行動の積み重ねを大切にしてほしい。そして、今の毎日の当たり前の生活や活動を大切にしてほしいという願いをこめて、ある言葉を紹介しました。

「ひとつ拾えば、ひとつきれいになる」です。日本全国で清掃活動をしている「日本を美しくする会」を提唱し、イエローハットの創始者である鍵山秀三郎さんが言っていた言葉です。イエローハットがまだ名もない小さな会社で社員が外商に出てもまともに相手にされず、苦しい日々を送っていた頃、荒む社員の心を和ませようと、鍵山さん（社長)が始めたのがトイレ清掃です。「うちの社長はトイレ掃除しかできない」と悪口を言う社員もいたそうです。掃除という凡事を陰日向なく非凡なまでに徹底してやりぬく（凡事徹底）姿勢が次第に社員の心を打ち、10年たった頃から手伝う人が現れ、やがて多くの社員が自主的に参加する掃除に変わったそうです。そこから、会社の実績も上がっていったとのことでした。

南小学校も 343 名が一つごみを拾えば、343のきれいが生まれます。さらに、ゴミを目にしたら、腰をかがめてさっと拾う。この行動を続けるだけで、「気づく」という力が身につきます。同時に、気づいたらどうしたらよいかという考える力も高まってきます。

そして、これが自然にできるようになると、拾う人は無神経にごみをポイ捨てすることはしません。この差は年月が経てば経つほど、大きな差となって表れてきます。私たちの生活はすべてこのように小さいことの積み重ね、ゴミひとつといえども小さなことではありません。小さなことの積み重ねが、やがて大きなことに繋がります。

今、この場所で自分にできる精一杯のことをしたら、周囲が少しでも明るくなっていきます。小さな取組みでも、周囲に感化を与え、実戦する人が増えていけば、やがて社会を変える程の力となります。小さなことや、当たり前のことを普通に大切にできる南っ子であってほしいと願っています。

「たかがごみ」ですが、「されどごみ」です。自分たちが周りの人たちのために何ができるかを考えて行動できるようになれるとよいと思います。

暑くなり、毎日プールからは子どもたちの元気な歓声が聞こえてきます。我々、教職員もこの毎日の落ち着いた学校生活が送れていることに感謝をして、南っ子たちと全力で向き合っていきたいと考えています。